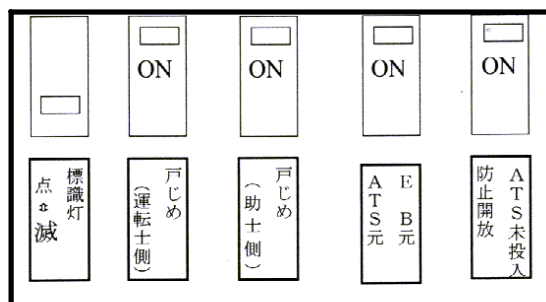


JR東海労なごや

2010年6月8日 No. 803
JR東海労名古屋地方本部
発行者：丹羽成生
編集者：教宣部

全ては安全のために・・・ならば早急に改善を！

この間、名古屋地本は、「211系電車の終着駅折り返しスイッチ整備でATS・EB元NFBを「切」とする時に、隣にある戸じめ（助手側）NFBに誤って触れてしまうことでNFBが「切」となり、その結果その車両の助手側のドアが閉じてしまう事象」に対しての申し入れを再三にわたって行ってきました。



- ① 運転士が常に扱うATS・EB元NFBの隣にドアが閉まってしまうNFBが設置されている。
- ② これらのNFBは床から2m程の高さにあり、運転士によっては「つま先立ち」「片手で体重を支えながら台に上る」などの体制で扱うNFBである。
- ③ そもそも、NFBはトリップさせるための機器で常に「切」の側に力が向いていて、切るという動作ではなく触れただけで切れてしまう。

運転士が誤って触れてドアが閉まると、運転士のみの責任にされ、掲示が出され日勤教育が行われます。私たちはATS・EB元NFBの隣には標識灯などの誤って触れても問題のないNFBに配置し直すこと。戸じめ（助手側）NFBにアクリルカバーを付け誤って触れない対策を行うこと。と何度も会社に申し入れてきました。しかし、会社は「手順通りにやれば問題ない、現行通り」と回答を繰り返し、やらせるのみの対策でした。ある運輸区ではATS絡みの事故だから保安装置の事故だ重大事故であると言っている管理者もいます。会社として設備改善対策を何も行わず、乗務員に対して責任のみを押しつけています。

その結果、誤ってドアが閉まってしまう事象は、不幸にも多くの運輸区で何回も繰り返されています。

**私たちJR東海労は、
NFBの配置を換えるかアクリルカバーを付ける対策
を早急に実施することを、繰り返し主張します。**